

Entrepreneur Candidate Club (ECC-iCAP)

the place where science & entrepreneurship intersect

～ 科学のフロントランナーが語る未来世界 ～

起業家×研究者×技術者が京都大学のサイエンスで起業するプラットフォーム、ECC-iCAP のイベント第二弾を開催します！ ご参加お待ちしております！



日時 11月17日（金） 17:00～20:50

場所 京都大学国際科学イノベーション棟 1階ラウンジ

定員 100名まで

対象 起業家精神を持つ社会人、企業経営者、将来、CEO、CSO、CFO等経営層を目指す個人（京都大学出身者に限らない）

主催 京都大学イノベーションキャピタル株式会社

共催 京都大学産官学連携本部、関西TLO株式会社、日本ベンチャーキャピタル株式会社

申し込み方法 右記 URL から申し込みください → <http://ptix.at/9Pd7kz>

進行：(司会 京都大学イノベーションキャピタル 八木信宏)

17:00	開場
17:00-18:00	ポスターセッション
18:00-18:10	開会挨拶&オリエンテーション（京都iCAP 室田浩司（代表）/五ノ坪良輔）
18:10-19:50	研究者からのプレゼンテーション
19:50-20:40	交流会&エレベーターピッチ
20:50	閉会挨拶（京都 iCAP 楠美公）

スピーカー：

- 研究者プレゼンテーション：研究成果の事業化を目指す京都大学の研究者他 6名
- エレベーターピッチ&ポスターセッション：京都iCAPの投資先ベンチャー企業 6社

※ECC-iCAPは、起業家と京都大学テクノロジーのマッチングを目的として京都大学イノベーションキャピタル株式会社が運営するクラブです。

「お問い合わせ」：ECC-iCAP事務局 ecc-icap@kyoto-unicap.co.jp

<登壇者 略歴>

● 松野文俊 京都大学 工学研究科 教授：過酷環境で稼働するロボットシステムがもたらす社会安全（仮）

大阪大学大学院博士後期課程修了後、同大学助手、神戸大学工学部情報知能工学科助教授、東京工業大学工学研究科助教授、電気通信大学電気通信学研究科教授を経て、現在に至る。2015年にロボット技術とITを基盤としたサンダーボードのような国際救助隊の実現を目指して、レスキュー工学の構築を推進している。これに関連し、走破性の高い移動ロボットの開発、移動ロボットの操作インターフェイス、通信負荷を考慮した遠隔操作システム、移動ロボットの自律制御、複数台ロボットの編隊制御などを研究している。また制御と力学をベースに生物の運動知能を理解し、さらに生物を超える機械システムの実現を目指している。これに関連して、ヘビ型ロボットの開発と運動制御、水陸両用のねじ推進ヘビ型ロボット、環境にフェロモンを付加することによりコミュニケーションを行う蟻を模した群ロボットなどを研究している。

● 谷森達 京都大学 理学研究科 教授：ガンマ線の完全可視化が切り開く新しい産業の可能性

専門分野 高エネルギー物理学実験および宇宙線物理学。大学院、KEKと加速器を用いた素粒子実験を行う一方、宇宙物理学に興味を持ち86年KAMIOKANDEに参加、Super Kamiokandeの回路開発に従事。90年代初め責任者としてネットワーク型大型信号処理システムを開発。当時未開拓だったTeVガンマ線天文学の開拓を目指し豪州に大型TeVガンマ線望遠鏡を東大宇宙研究所と共同で設置、92年から2010年まで日豪共同宇宙TeVガンマ線観測実験の責任者の一翼を担う。東工大時代には微細加工技術を利用したガス検出器の開発を行い構造解析用X線画像法の研究を化学者と共同で実施、成果はJ-PARC中性子施設の計数型高位置検出型画像装置として結実。2000年からはこの技術を可視化が困難な核ガンマ線、いわゆる放射能の可視化に応用、宇宙での元素合成の謎を解き明かすべく宇宙核ガンマ線望遠鏡の開発を行い、今年、完全な核ガンマ線可視化技術の実証を論文掲載。この技術を社会に還元するため(株)京都Space Gammaを設立。

● 木下政人 京都大学 農学研究課 助教：ゲノム編集技術を用いた効率的魚種品種改良

京都大学農学部卒業後、1991年に同大学院農学研究科で博士号（水産学専攻）を取得。日本学術振興会特別研究員、京都大学教養部講師、総合人間学部講師などを経て、1994年に農学部助手に就任。放射線医学総合研究所外来研究員、京都府立医科大学客員講師なども務めた。現在は、ゲノム編集技術を応用した魚類の品種改良の実用化に取り組んでいる。このプロジェクトでは水産総合研究センターや近畿大学と共同研究を実施しており、人工的にトラフグやマダイの遺伝子を改変し、筋肉量を増やしたり、養殖期間を短縮したりすることに成功している。同プロジェクトはGAPファンドプログラムに採択されており、ゲノム編集魚ベンチャー設立に向けた準備を進めている。

● シバニア イーサン 京都大学高等研究院 教授：Start-up Investment Opportunities for State-of-the-art Membrane Technologies

Professor Easan Sivaniah, leads the **Pureosity** group, an initiative out of Kyoto University for bringing research from the laboratory to fruition through start-up and social entrepreneurship. He was educated at Imperial College (London) and Cambridge University and is a tenured full professor at Kyoto University. He has published in *Nature Materials*, *Nature Communications*, and *Nature Energy* as well as other high visibility

journals in the area of membrane technology for energy and the environment. He is also the recipient of several JST (including JST START) and Ministry of Environment research funds which has allowed him to develop a world-class membrane technology group in Kyoto University. His work has been featured in national and international media. **Pureosity**, in Kyoto, Japan's ancient heart, is a collection of many nationalities and philosophies, that innovates with freedom in our expression and imagination, to open a space to share voices and environmental awareness globally through advances in clean technology.

● **金子新 京都大学 iPS細胞研究所 准教授：再生キラーT細胞による免疫療法（仮）**

専門分野：免疫再生、腫瘍・感染免疫、幹細胞生物学。京都大学iPS細胞研究所・増殖分化機構研究部門 准教授。専門は、免疫再生、腫瘍・感染免疫、幹細胞生物学。筑波大学大学院医学研究科において造血幹細胞遺伝子治療ならびに免疫遺伝子治療の研究を行う。2002年博士（医学）取得。大学院卒業後は、日本学術振興会特別研究員、筑波大学血液病態制御医学（血液内科）講師、2005年サンラファエレ研究所（イタリア）研究員を経て、2008年東京大学医科学研究所助教を務め、2012年より現職。2013年から17年まで、iPS細胞研究所附属細胞調製施設（FiT）施設長兼任。iPS細胞の特性を生かした免疫再生治療の実現に向けた研究を行っている。

● **等泰道 サイアス株式会社 代表取締役：研究者から米国バイオテックへの道程**

熊本大学を卒業し同年に医師免許を取得。同大学院に進学し高津聖志教授の指導にてIL-5受容体とそのシグナル伝達の研究に従事、免疫学で医学博士取得。同大学医学部助手（1991年）、東京大学医科学研究所助手（1991年-1995年）を経て、スタンフォード大学Garry Nolan教授のもとに留学、レトロウイルスを用いた遺伝子クローニング技術並びにFunctional Genomicsの手法を習得。1998年、スタンフォード大学発技術でスタートしたRigel Pharmaceuticals, Inc.に入社し、腫瘍学や代謝学分野の創薬研究開発（創薬標的の同定と前臨床試験）並びに治験薬許可申請に研究主事として従事。（Aurora, JAK2, SYK, AXL, とAMPKキナーゼを標的とする低分子薬）。現在、アメリカにおける創薬研究開発の経験と実績を買われて、京都大学発ベンチャーであるサイアス社に入社し、iPS細胞技術により得られるキラー活性の高いT細胞を使った自家免疫療法の開発に従事。大学院時代より60報の研究論文発表、11件の国内外での招待講演を行う。

<エレベーターピッチ&ポスターセッション>

- 株式会社幹細胞&デバイス
- 株式会社京都創薬研究所
- 株式会社AFIテクノロジー
- 株式会社ミライセルフ
- FLOSFIA株式会社
- CONNEX SYSTEMS株式会社
- サイアス株式会社